

東京外国語大学 データ夕集

平成
24年度

TOKYO UNIVERSITY OF FOREIGN STUDIES



東京外国語大学

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
TEL 042-330-5111 FAX 042-330-5140



東京外国語大学 デー夕集

平成
24年度

歴代の校長・学長	1
役職員	1
沿革	2
沿革略史	3
変遷	4
運営組織	6
教育研究組織	7
学生数	8
卒業・修了	14
教職員数	16
附属図書館蔵書数	16
大学の財政状況	17
土地・建物	19
府中キャンパス	20
本郷サテライト	21

歴代の校長・学長

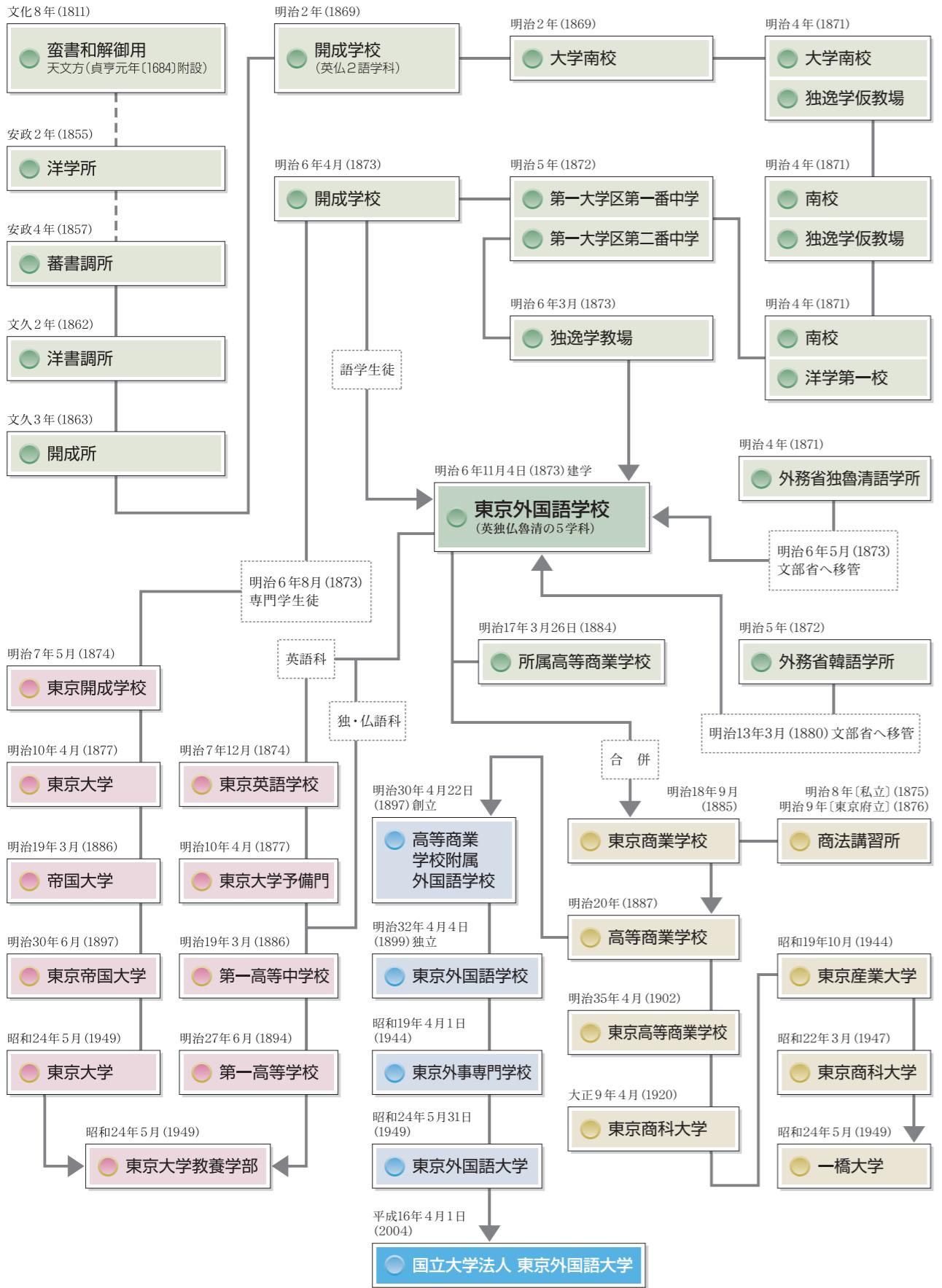
校長	学長
【東京外国语学校】	【東京外国语大学】
神田 乃武 明治32年4月	井手 義行 昭和24年5月 (学長事務取扱)
上田 万年 明治33年4月 (校長事務取扱)	澤田 節蔵 昭和24年8月
高楠順次郎 明治33年11月	岩崎 民平 昭和30年12月
村上直次郎 明治41年7月	小川 芳男 昭和36年12月
茨木清次郎 大正7年9月	鐘ヶ江信光 昭和44年4月 (学長事務取扱)
長屋 順耳 大正8年4月	鐘ヶ江信光 昭和46年4月
戸沢 正保 昭和7年8月	坂本 是忠 昭和50年4月
石井 忠純 昭和13年12月	鈴木 幸壽 昭和56年9月 (学長事務取扱)
大畠 文七 昭和18年9月	鈴木 幸壽 昭和56年12月
【東京外事専門学校】	長 幸男 昭和60年12月
大畠 文七 昭和19年4月	原 卓也 平成元年9月
井手 義行 昭和20年7月	中嶋 嶺雄 平成7年9月
	池端 雪浦 平成13年9月
	龜山 郁夫 平成19年9月

役職履歴 (平成24年5月1日現在)

役員会	
学長	郁夫 宮崎 村上
理事(教育研究総括・国際戦略等担当)	恒二 金口
理事(総務・企画・人事労務・施設等担当) / 事務局長	恭久 村上
理事(財務・広報総括・産学官連携等担当)	光一 栗田
副学長	
副学長(教育・入試改革等担当)	博之 和田
副学長(研究・広報・戦略企画等担当)	忠彦 立石
副学長(点検評価・学生支援・アラムナイ等担当)	博高 栗田
監事	
監事(非常勤)	寺前 隆
監事(非常勤)	長谷川康司
学長特別補佐	
学長特別補佐(教育国際化等担当)	小林 幸江
学長特別補佐(点検評価等担当)	澤田 ゆかり
学長特別補佐(社会連携等担当)	武田 千香
学長特別補佐(大学連携・教育改革等担当)	鈴木 義一
経営協議会	
凸版印刷株式会社印刷博物館館長	樺山 紘一
公益法人神奈川芸術文化財団顧問	川村 恒明
弁護士(元日弁連副会長)	木村 謙
三井物産株式会社元代表取締役社長 日本ブラジル中央協会会长	清水慎次郎
前国連大学学長上級顧問 中央アジア・コーカサス研究所所長	田中 哲子
昭和女子大学学長	坂東真理真
共栄大学教育学部長	藤田 英典
公立大学法人首都大学東京大学院社会科学研究科経営学専攻教授	松田 千恵子
学長	龜山 郁夫
理事(財務・広報総括・産学官連携等担当)	村上 誠一
大学院総合国際学研究院長	川口 裕司
言語文化学部長	岩崎 稔
国際社会学部長	栗原 浩英
アジア・アフリカ言語文化研究所長	伊東 勉郎
留学生日本語教育センター長	金口 恭久
理事(総務・企画・人事労務・施設等担当) / 事務局長	栗田 博之
教育研究評議会	
学長	郁夫 宮崎 村上
理事(教育研究総括・国際戦略等担当)	恒二 金口
理事(総務・企画・人事労務・施設等担当) / 事務局長	恭久 村上
理事(財務・広報総括・産学官連携等担当)	博之 栗田
副学長(教育・入試改革等担当)	忠彦 和田
副学長(研究・広報・戦略企画等担当)	博高 立石
副学長(点検評価・学生支援・アラムナイ等担当)	栗田 博之
大学院総合国際学研究院長	誠一 川口
言語文化学部長	岩崎 稔
国際社会学部長	栗原 浩英
大学院総合国際学研究院副研究院長	岩崎 稔

大学院総合国際学研究院副研究院長	相馬	保夫
言語文化学部副学部長	水野	善文
国際社会学部副学部長	金井光	太朗
アジア・アフリカ言語文化研究所長	栗原	浩英
アジア・アフリカ言語文化研究所副所長	三尾	裕子
アジア・アフリカ言語文化研究所 附属情報資源利用研究センター長	永原	陽子
留学生日本語教育センター長	伊東	祐郎
留学生日本語教育センター副センター長	藤森	弘子
附属図書館長	栗田	博之
総合情報コラボレーションセンター長	佐野	洋
保健管理センター所長	立石	博高
▶ 大学院総合国際学研究院		
大学院総合国際学研究院長	村尾	誠一
大学院総合国際学研究院副研究院長	岩崎	務
大学院総合国際学研究院副研究院長	相馬	保夫
▶ 大学院総合国際学研究科		
大学院総合国際学研究科長	村尾	誠一
大学院総合国際学研究科副研究科長	岩崎	務
大学院総合国際学研究科副研究科長	相馬	保夫
▶ 言語文化学部		
言語文化学部長	川口	裕司
言語文化学部副学部長	水野	善文
言語文化学部学部長補佐	浦田	和幸
言語文化学部学部長補佐	佐々木あや	乃
言語・情報コース長	早津恵美子	
グローバルコミュニケーションコース長	鶴田知佳子	
総合文化コース長	吉本	秀之
▶ 国際社会学部		
国際社会学部長	岩崎	稔
国際社会学部副学部長	金井光	太朗
国際社会学部学部長補佐	李	孝徳
国際社会学部学部長補佐	左右田直規	
地域社会研究コース長	佐々木孝弘	
現代世界論コース長	金	富子
国際関係コース長	渡邊	啓貴
▶ アジア・アフリカ言語文化研究所		
アジア・アフリカ言語文化研究所長	栗原	浩英
アジア・アフリカ言語文化研究所副所長	三尾	裕子
附属情報資源利用研究センター長	永原	陽子
フィールドサイエンス研究企画センター長	西井	涼子
▶ 留学生日本語教育センター		
留学生日本語教育センター長	伊東	祐郎
留学生日本語教育センター副センター長	藤森	弘子
▶ 附属図書館		
附属図書館長	栗田	博之
▶ 総合情報コラボレーションセンター		
総合情報コラボレーションセンター長	佐野	洋
▶ 保健管理センター		
保健管理センター所長	立石	博高
▶ 国際日本研究センター		
国際日本研究センター長	野本	京子
▶ 世界言語社会教育センター		
世界言語社会教育センター長	栗田	博之
▶ 学内附属教育・研究施設		
国際関係研究所長	渡邊	啓貴
海外事情研究所長	鈴木	茂
語学研究所長	高垣	敏博
総合文化研究所長	松浦	寿夫
多言語・多文化教育研究センター長	青山	亨二
地球社会先端教育研究センター長	宮崎	恒一
▶ 事務局		
事務局長	金口	恭久
企画調整役	成瀬	智二
企画調整役	早坂	勇
総務企画課長	成瀬	智
人事労務室長	成瀬	順
会計課長	深松	潔
施設課長	大高	治
研究協力課長	藤井	修
学術情報課長	石村	恵
教務課長	畠田	章之
学生課長	佐伯	季
入試課長	早坂	勇
留学生課長	中尾	かり
プロジェクト支援事務室長	早坂	勇
改編推進支援室長	山口	登之
情報企画主幹	今井	健

沿革



沿革略史

6(1873)・11・4 ▶ 東京外国语学校(官立)、第一大学区東京第四大区二小
区一ツ橋通町一番地に開設。5学科(英・仏・独・露・清語)を設置

7(1874)・12・24 ▶ 英語学科が東京英語学校設置に伴い同校に移行、よつ
て4学科(仏・独・露・清語)となる

13(1880)・3 ▶ 朝鮮語学科設置

17(1884)・3・26 ▶ 東京外国语学校に所属高等商業学校を設置

18(1885)・8・14 ▶ 仏・独語学科が東京大学予備門に移行、よつて3学科
(露・清・朝鮮語)となる

9・22 ▶ 東京外国语学校及び同校所属高等商業学校と東京商業
学校が東京商業学校として合併

29(1896)・1 ▶ 第九帝国議会において衆議院及び貴族院の両院が外國
語学校の開設を建議

30(1897)・4・22 ▶ 高等商業学校に附属外国語学校附設
7学科(英・仏・独・露・西・清・韓語)を設置。修業年限3年

32(1899)・4・4 ▶ 高等商業学校附属外国語学校が東京外国语学校(神田
錦町3丁目14番地)と改称されるとともに、文部省直轄
3官立専門学校の一つとして独立

伊語学科を設置し、8学科となる

44(1911)・1 ▶ 新たに5学科(蒙古語、暹羅語、馬來語、ヒンドゥスチ
ー語、タミル語)を設置し13学科となる
韓語学科を朝鮮語学科に改称

2(1913)・2・20 ▶ 神田大火により校舎全焼
2・24 ▶ 文部省修文館のほか東京高等商業学校分教場の一部を
借用し、授業開始
9・5 ▶ 本校敷地内に仮校舎を新築
清語学科を支那語学科に改称

5(1916)・1・17 ▶ 葡萄語学科を設置し、14学科となる

8(1919)・9・4 ▶ 各学科の名称を部に改正、各部を文科、貿易科、拓殖科
に分ける

10(1921)・4・10 ▶ 麻町区元衛町一番地の新校舎に移転

12(1923)・9・1 ▶ 関東大震災により附属建物を除き全焼
11・1 ▶ 牛込区市ヶ谷の陸軍士官学校の一部を借用し授業開始

13(1924)・3・3 ▶ 麻町区竹平町一番地の元文部省跡の新築仮校舎に移転

2(1927)・3・28 ▶ 朝鮮語部廃止により13語部となる。修業年限4年に改正

15(1940)・7・24 ▶ 滝野川区西ヶ原町の元海軍爆薬部跡に木造校舎を新築

16(1941)・5・21 ▶ 暹羅語部を泰語部に改称、暹羅語を泰語に改称

19(1944)・4・26 ▶ 東京外事専門学校と改称。修業年限3年に改正
第一部(支那、蒙古、タイ、マライ、インド、ビルマ、フィ
リピン、イスパニヤ、ボルトガルの9科)及び第二部(ドイ
ツ、フランス、ロシア、イタリヤ、英米の5科)を設置
別科として専修科(修業年限2年)及び速成科(修業年限
1年)を設置

5・31 ▶ 麻町区竹平町一番地から書庫を除き滝野川区西ヶ原町
の新築校舎に移転

20(1945)・4・13 ▶ 戦火により校舎等全焼
5 ▶ 戦火により校舎等全焼のため下谷区上野公園東京美術
学校、図書館講習所、美術研究所内に移転。7月から授
業開始

21(1946)・6・1 ▶ 板橋区上石神井1丁目216番地の智山中学校校舎の一
部借用
7・22 ▶ 支那科を中国科に、タイ科をシャム科に改正し、支那語
を中国語に、タイ語をシャム語に改称

8・1 ▶ 板橋区上石神井1丁目79番地の東京工業専門学校の電
波兵器技術専修学校跡を借用して移転し、9月から授
業開始

8・16 ▶ マライ科をインドネシア科に、フィリピン科をフィ
リッピング科に改称

24(1949)・3・23 ▶ 北区西ヶ原町の校地に戦災復旧木造校舎を新築

5・31 ▶ 国立学校設置法の施行により東京外国语学校設置(東
京外事専門学校を括して設置)。修業年限4年

6・1 ▶ 12学科(英米、フランス、ドイツ、ロシア、イタリヤ、イ
スパニヤ、ボルトガル、中国、蒙古、インド、インドネシ
ヤ、シャム)を設置

8・30 ▶ 元ブルジョア階級全權大使澤田節藏、初代学長に就任

26(1951)・3・31 ▶ 東京外事専門学校を廃止

29(1954)・7・5 ▶ 外国語学部に海外事情研究所を開設
9 ▶ 留学生別科を設置。修業年限1年

30(1955)・12・16 ▶ 初めての選舉により教授岩崎民平が第二代学長に就任

31(1956)・3・31 ▶ 専攻科の設置。修業年限1年
専攻課程「英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、ロシ
ア語、イスパニヤ語、ボルトガル語、中国語、蒙古語、ウルドゥ
語、ヒンディー語、インドネシア語、シャム語」の13専攻

34(1959)・7・1 ▶ 外国語学部に語学研究所を開設

35(1960)・3 ▶ 留学生別科を廃止
4・1 ▶ 留学生課程を設置。修業年限3年

36(1961)・4・1 ▶ 学科を科に改称。イスパニヤ学科、ボルトガル学科、蒙
古学科、インド学科、シャム学科をそれぞれスペイン
科、ボルトガル・ブラジル科、モンゴル科、インド・バー
キスタン科、タイ科に改称。アラビア科を設置

39(1964)・4・1 ▶ 科を語学科に改称
タイ科をインドネシア語学科に改称
アジア・アフリカ言語文化研究所を設置

41(1966)・4・1 ▶ 大学院外国语学研究科修士課程を設置

43(1968)・4・1 ▶ 特設日本語学科を設置

45(1970)・4・1 ▶ 北区西ヶ原に附属日本語学校を設置

46(1971)・3 ▶ 府中市住吉町5丁目10番地1号の新校舎に附属日本語
学校移転

46(1971)・4・1 ▶ 田沢湖高原研修施設を開設

47(1972)・3 ▶ 留学生課程を廃止

50(1975)・4・1 ▶ 大学院外国语学研究科修士課程に日本語学専攻を設置

52(1977)・4・1 ▶ 朝鮮語学科を設置
大学院地域研究研究科修士課程を設置

55(1980)・4・1 ▶ ベルシア語学科を設置

59(1984)・4・1 ▶ インドネシア語学科をインドネシア・マレーシア語学科に改称

60(1985)・4・1 ▶ 特設日本語学科を日本語学科に改組
国際交流会館開設

61(1986)・4・1 ▶ 附属日本語学校に留学生教育教材開発センターを設置

3(1991)・4・1 ▶ ロシヤ語学科をロシヤ・東欧語学科に改組

4(1992)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科博士課程(前期・後期)を設置、外
国語学研究科修士課程及び地域研究研究科修士課程を
地域文化研究科に統合
インドネシア・マレーシア語学科とインドネシア語学科
を東南アジア語学科に改組

4・10 ▶ 附属日本語学校と留学生教育教材開発センターを留学
生日本語教育センターに改組

5(1993)・4・1 ▶ アラビア語学科とベルシア語学科を中東語学科に改組

7(1995)・4・1 ▶ 外国語学部を7課程(欧米第一、欧米第二、ロシア・東欧、
東アジア、東南アジア、南・西アジア、日本)3大講座(言
語・情報・総合文化、地域・国際)に改組

8(1996)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に「国際文化講座」(博士講座)を
設置
外国语学部に総合文化研究所を開設

9(1997)・4・1 ▶ アジア・アフリカ言語文化研究所に情報資源利用研究
センターを設置
4・22 ▶ 創立百周年(建学百二十四年)記念式典挙行

10・22 ▶ 情報処理センターを設置

10(1998)・10・1 ▶ ISEPTUFS(東京外国语大学国際教育プログラム)開設

11(1999)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に「国際協力講座」(博士講座)を
設置
11・4 ▶ 独立百周年(建学百二十六年)記念式典挙行、『東京外国语大学史』刊行。ドナルド・キーン氏(コロンビア大学名
誉教授)に最初の名誉博士学位を授与

12(2000)・4・1 ▶ 副学長(2人)、外国语学部長が設置される
大学院地域文化研究科に最初の連携講座(連携先・日本
銀行金融研究所)を設置

8・11 ▶ 府中新キャンパスに移転(10月2日より新キャンパスに
て授業開始)

13(2001)・3・15 ▶ 東京医科歯科大学、東京外国语大学、東京工業大学、一
橋大学間において「四大学連合憲章」調印

4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に連携講座(連携先・国際協力事
業団)を設置

5・10 ▶ 東京外国语大学本郷サテライト開設

14(2002)・2・1 ▶ アジア・アフリカ言語文化研究所が府中キャンパスに移転

4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に「対照言文情報講座」(博士講
座)を設置
外国语学部附属施設の海外事情研究所、語学研究所、総
合文化研究所を廃止し、新たに学内附属施設として海
外事情研究所、語学研究所、総合文化研究所を開設

15(2003)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に連携講座(連携先・日本貿易振
興会アジア経済研究所)を設置

16(2004)・2・23 ▶ 留学生日本語教育センターが府中キャンパスに移転

4・1 ▶ 国立大学法人法に基づき国立大学法人東京外国语大学
設立
大学院地域文化研究科に「平和構築・紛争予防講座」(博
士講座)を設置

16(2004)・10・1 ▶ 学内附属施設として国際環境法研究センターを設置

17(2005)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科に「言語教育学講座」(博士講座)
を設置
9・1 ▶ 國際學術戰略本部を設置

18(2006)・4・1 ▶ 大学院地域文化研究科博士前期課程の全専攻を、言語
文化専攻、言語応用専攻、地域・国際専攻、国際協力専
攻に改組
情報処理センターを廃止し、総合情報コラボレーシ
ョンセンターを設置
学内附属施設として多言語・多文化教育研究センター
を設置

19(2007)・3・7 ▶ アジア・アフリカ研究・教育コンソーシアム設立

4・1 ▶ 学内附属施設として地球社会先端教育センターを設置

20(2008)・10・1 ▶ 東京学園国語大学出版会設立

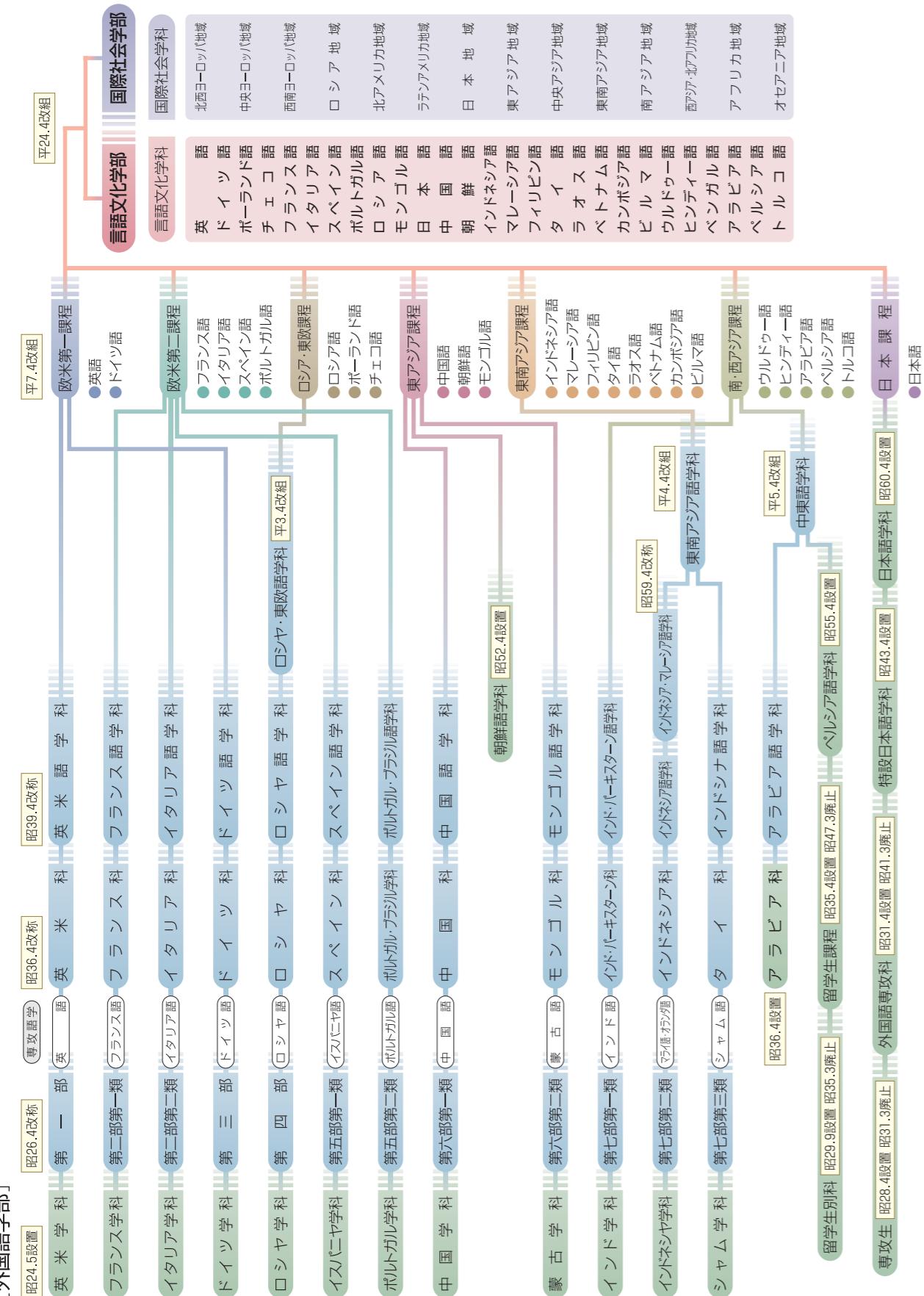
21(2009)・4・1 ▶ 総合国際学研究院を設置
総合国際学研究科を設置し、博士後期課程の地域文化
専攻を言語文化専攻と国際社会専攻に改組
国際日本研究センターを設置
世界言語社会教育センターを設置
学術情報基盤を設置

22(2010)・4・1 ▶ 異文化交流施設「アゴラ・グローバル」を開設

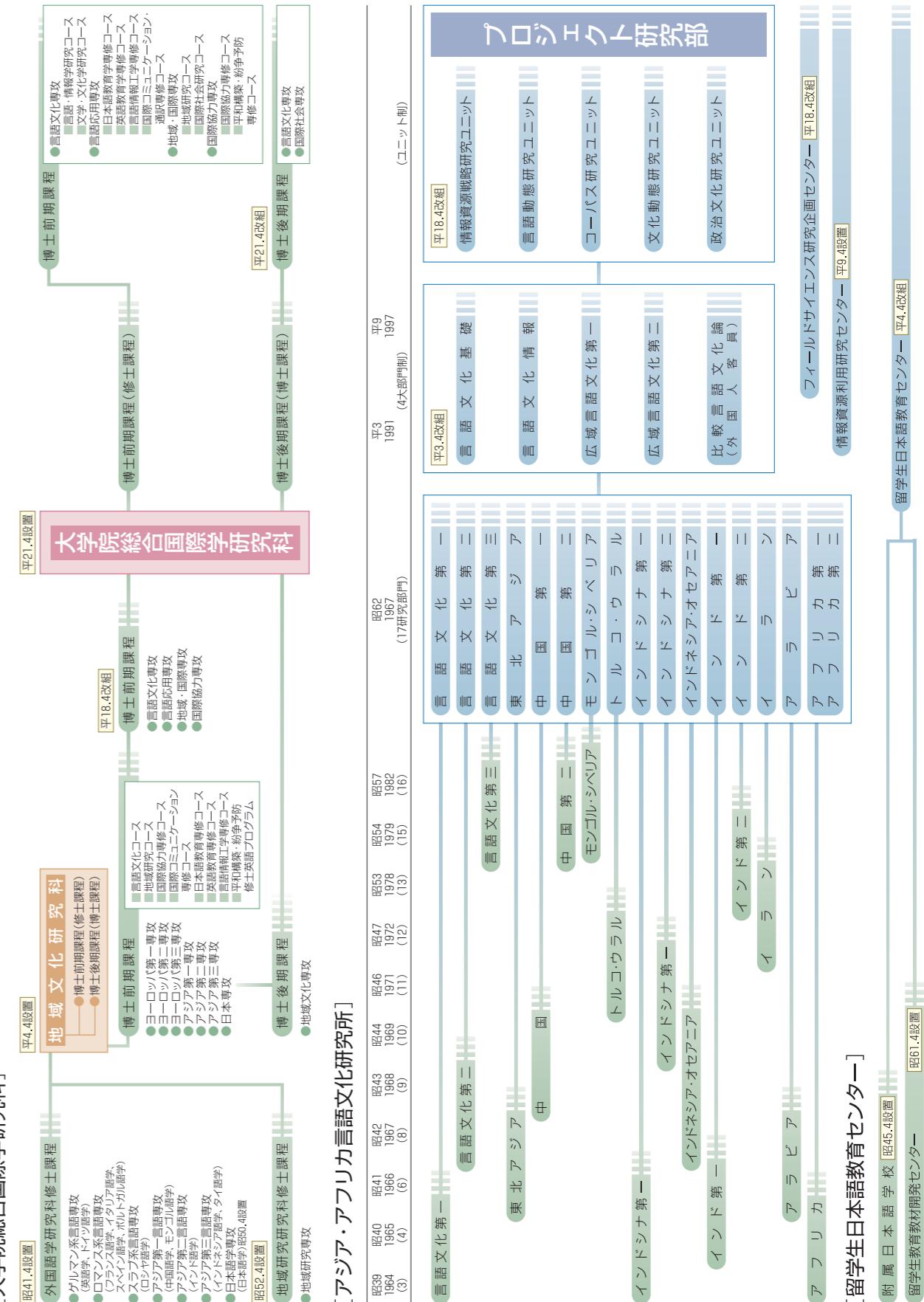
23(2011)・4・1 ▶ 学内附属施設として国際関係研究所を開設
学術情報基盤を設置

24(2012)・4・1 ▶ 外国語学部を改編し、言語文化学部、国際社会学部を設置

「外國語子部」

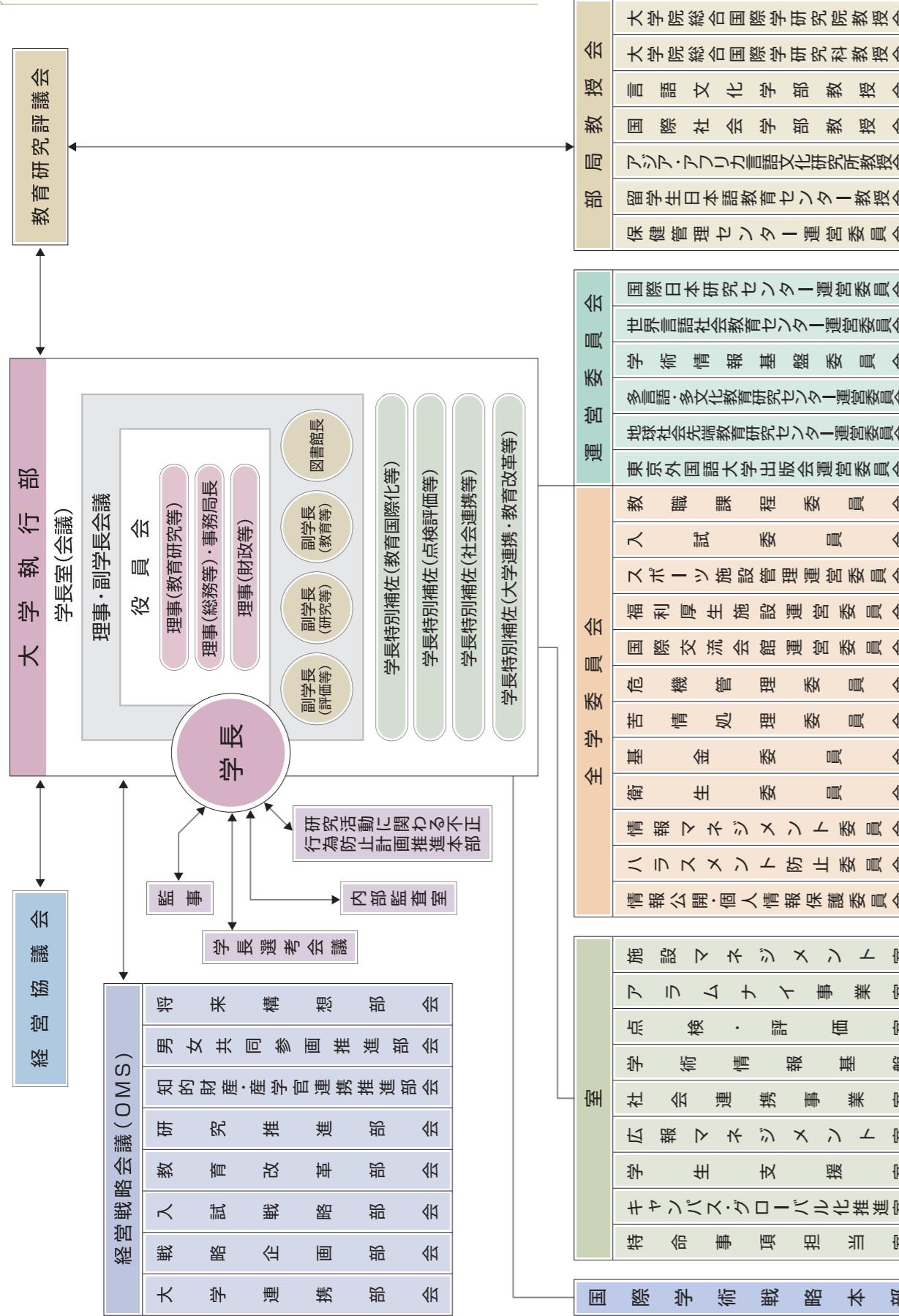


[研究空学科国際学会総合院大学]



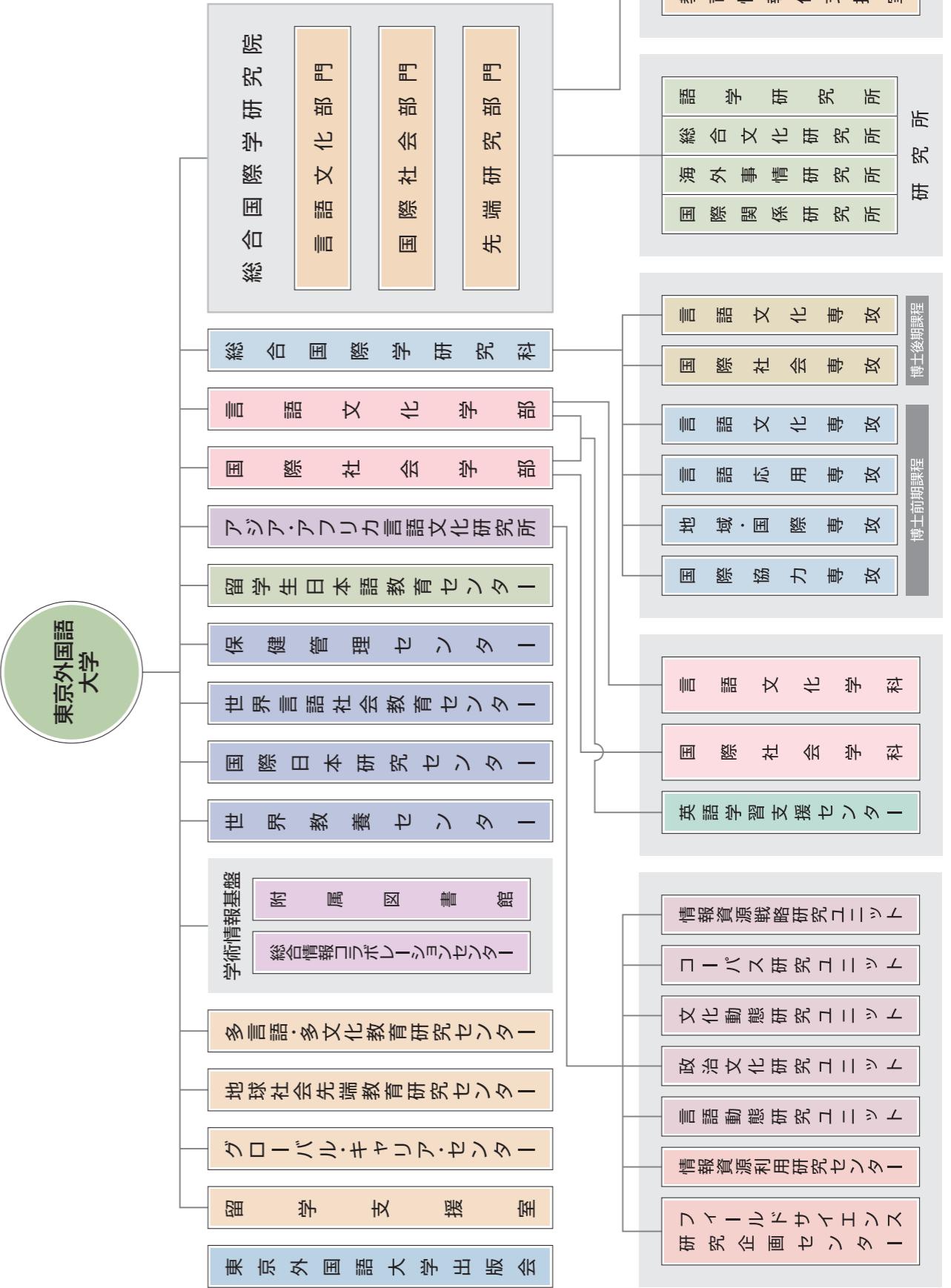
組織圖

(平成24年4月1日)



教育研究組織

(平成24年4月1日)



学生数

平成24年度入学志願者数及び入学者数

[言語文化学部]

(平成24年5月1日現在)

学科	定員	募集単位	募集人員	入学志願者数			入学者数		
				男	女	計	男	女	計
言語文化学科	370	英語	41	71	89	160	15	27	42
		ドイツ語	27	25	73	98	6	22	28
		ポーランド語	7	4	23	27	2	6	8
		チエコ語	7	7	18	25	2	6	8
		フランス語	27	30	85	115	8	19	27
		イタリア語	14	13	29	42	5	10	15
		スペイン語	30	43	79	122	16	15	31
		ポルトガル語	13	31	30	61	6	7	13
		ロシア語	30	44	49	93	17	13	30
		モンゴル語	7	12	17	29	2	6	8
		日本語	10	2	19	21	1	10	11
			15	36	92	128	7	8	15
		中国語	28	21	45	66	13	17	30
		朝鮮語	14	6	35	41	2	12	14
		インドネシア語	10	7	24	31	2	8	10
		マレーシア語	5	3	11	14	1	3	4
		フィリピン語	7	5	14	19	2	6	8
		タイ語	7	8	14	22	4	3	7
		ラオス語	5	1	7	8	1	4	5
		ベトナム語	6	7	9	16	3	3	6
		カンボジア語	5	4	12	16	2	4	6
		ビルマ語	5	7	4	11	4	2	6
		ウルドゥー語	7	9	12	21	3	5	8
		ヒンディー語	10	15	29	44	3	8	11
		ベンガル語	5	4	13	17	2	4	6
		アラビア語	14	8	15	23	7	8	15
		ペルシア語	7	10	19	29	3	5	8
		トルコ語	7	7	15	22	2	6	8
		合計	370	440	881	1,321	141	247	388

(注) 入学志願者数及び入学者数には、推薦入試、帰国子女特別入試、私費外国人留学生入試を含む。

言語文化学部の推薦入試者数については下表参照。

募集単位の日本語欄の上段は日本人学生を、下段は外国人留学生を示す。

[言語文化学部(推薦入試)]

(平成24年5月1日現在)

学科	募集単位	募集人員	入学志願者数			入学者数		
			男	女	計	男	女	計
言語文化学科	英語	2	13	27	40	1	1	2
	ドイツ語	2	6	27	33	1	1	2
	フランス語	2	7	24	31	0	2	2
	スペイン語	2	16	37	53	1	1	2
	ロシア語	2	9	18	27	0	2	2
	中国語	2	2	17	19	0	2	2
	合計	12	53	150	203	3	9	12

[国際社会学部]

(平成24年5月1日現在)

学科	定員	募集単位	募集人員	入学志願者数			入学者数		
				男	女	計	男	女	計
国際社会学科	375	北西ヨーロッパ	11	38	39	77	6	4	10
		中央ヨーロッパ	41	111	183	294	11	30	41
		西南ヨーロッパ第1	41	102	196	298	13	28	41
		西南ヨーロッパ第2	17	49	74	123	6	12	18
		シニア	25	111	95	206	11	16	27
		北アメリカ	16	68	54	122	6	10	16
		ラテンアメリカ	27	94	130	224	12	16	28
		日本	5	5	6	11	3	2	5
		日本	15	21	50	71	7	8	15
		東アジア	42	163	240	403	22	22	44
		中央アジア	13	24	41	65	4	10	14
		東南アジア第1	21	114	184	298	3	19	22
		東南アジア第2	28	149	268	417	2	26	28
		南アジア	21	122	177	299	7	12	19
		西アジア・北アフリカ	27	78	150	228	10	22	32
		アフリカ	15	22	29	51	5	11	16
		オセアニア	10	18	33	51	2	7	9
		合計	375	1,289	1,949	3,238	130	255	385

(注) 入学志願者数及び入学者数には、帰国子女特別入試、私費外国人留学生入試を含む。

募集単位の日本語欄の上段は日本人学生を、下段は外国人留学生を示す。

[大学院総合国際学研究科]

(平成24年5月1日現在)

課程	専攻	定員	入学志願者数			入学者数		
			男	女	計	男	女	計
博士前期課程	言語文化専攻	47	35	64	99	22	23	45
	言語応用専攻	34	23	61	84	9	18	27
	地域・国際専攻	37	32	59	91	10	27	37
	国際協力専攻	30	16	30	46	6	18	24
博士後期課程	言語文化専攻	20	15	22	37	6	16	22
	国際社会専攻	20	13	12	25	7	6	13
合計		188	134	248	382	60	108	168

在籍者数

[言語文化学部]

(平成24年5月1日現在)

学科	言 語	定員	現 員		入学後の配属地域	1 年		計
			男	女		男	女	
言 語 文 化 学 科	英 語	41	15	27	北西ヨーロッパ地域	8	12	20
					北アメリカ地域	7	14	21
	オセアニア地域					1	1	
	ドイツ語	27	6	22	中央ヨーロッパ地域	6	22	28
	ボーランド語	7	2	6	中央ヨーロッパ地域	2	6	8
	チエコ語	7	2	6	中央ヨーロッパ地域	2	6	8
	フランス語	27	8	19	西南ヨーロッパ地域	8	19	27
	イタリア語	14	5	10	西南ヨーロッパ地域	5	10	15
	スペイン語	30	16	15	西南ヨーロッパ地域	12	12	24
					ラテンアメリカ地域	4	3	7
	ポルトガル語	13	6	7	西南ヨーロッパ地域	3	4	7
					ラテンアメリカ地域	3	3	6
	ロシア語	30	17	13	ロシア地域	13	11	24
					中央アジア地域	4	2	6
	モンゴル語	7	2	6	中央アジア地域	2	6	8
	日本語(日本人)	10	1	10	日本地域	1	10	11
	日本語(外国人)	15	7	8	日本地域	7	8	15
	中国語	28	13	17	東アジア地域	13	17	30
	朝鮮語	14	2	12	東アジア地域	2	12	14
	インドネシア語	10	2	8	東南アジア地域	2	8	10
	マレーシア語	5	1	3	東南アジア地域	1	3	4
	フィリピン語	7	2	6	東南アジア地域	2	6	8
	タイ語	7	4	3	東南アジア地域	4	3	7
	ラオス語	5	1	4	東南アジア地域	1	4	5
	ベトナム語	6	3	3	東南アジア地域	3	3	6
	カンボジア語	5	2	4	東南アジア地域	2	4	6
	ビルマ語	5	4	2	東南アジア地域	4	2	6
	ウルドゥー語	7	3	5	南アジア地域	3	5	8
	ヒンディー語	10	3	8	南アジア地域	3	8	11
	ベンガル語	5	2	4	南アジア地域	2	4	6
	アラビア語	14	7	8	西アジア・北アフリカ地域	7	8	15
	ペルシア語	7	3	5	西アジア・北アフリカ地域	3	5	8
	トルコ語	7	2	6	西アジア・北アフリカ地域	2	6	8
	合 計	370	141	247		141	247	388

[国際社会学部]

(平成24年5月1日現在)

学科	地 域	定員	現 員		入学後の配属言語	1 年		計
			男	女		男	女	
国 際 社 会 学 科	北西ヨーロッパ地域	11	6	4	英 語	6	4	10
					ドイツ語	7	21	28
	中央ヨーロッパ地域	41	11	30	ボーランド語	3	4	7
					チエコ語	1	5	6
	西南ヨーロッパ地域 第1	41	13	28	フランス語	9	19	28
					イタリア語	4	9	13
	西南ヨーロッパ地域 第2	17	6	12	スペイン語	5	10	15
					ポルトガル語	1	2	3
	ロシア地域	25	11	16	ロシア語	11	16	27
	北アメリカ地域	16	6	10	英 語	6	10	16
	ラテンアメリカ地域	27	12	16	スペイン語	7	14	21
					ポルトガル語	5	2	7
	日本地域(日本人)	5	3	2	日本語	3	2	5
	日本地域(外国人)	15	7	8	日本語	7	8	15
	東アジア地域	42	22	22	中国語	16	14	30
					朝鮮語	6	8	14
	中央アジア地域	13	4	10	モンゴル語	1	7	8
					ロシア語	3	3	6
	東南アジア地域 第1	21	3	19	インドネシア語	2	10	12
					マレーシア語	1	3	4
					フィリピン語	6	6	6
					タイ語	1	8	9
					ラオス語	4	4	4
					ベトナム語	1	5	6
					カンボジア語	5	5	5
					ビルマ語	4	4	4
					ウルドゥー語	3	3	6
					ヒンディー語	3	6	9
					アラビア語	7	8	15
					ペルシア語	2	1	3
					トルコ語	0	0	0
	南アジア地域	21	7	12	日本語(留学生)	3	2	5
						21	20	23
	西アジア・北アフリカ地域	27	10	22	小 計	29	33	745
								293[2]
								672[22]
					合 計	62		820[2]
								992[31]
								1,128[46]
								3,002[79]

[外国語学部]

(平成24年5月1日現在)

課 程	専 攻	1年次		2年次		3年次		4年次		総計
		現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	
欧米第一課程	英 語	42	130	29	150	52	150	32[6]	34[6]	99[12]
	ドイツ語	34		24	190	45		53[11]	83[10]	190[21]
欧米第二課程	フランス語	33		16		66		14	13	46
	イタリア語	33		9	190	24		28	64	179
東アジア課程	スペイン語	55		32	190	38		54	16	35
	ポルトガル語	55		15		21		20	26	155
ロシア・東欧課程	ロシア語	62		38		50		18	26	68
	ポーランド語	10	100	9	100	8		12	13	33
東南アジア課程	チエコ語	0		1		12		2	20	53
	中国語	33	105	22		39		31[1]	36[5]	91[6]
南・西アジア課程	朝鮮語	21	105	4	105	25		8	17	107[11]
	モンゴル語	0		0		6		6[1]	9[1]	23[2]
日本課程										

[2012(平成24)年度国別留学生数(留学生日本語教育センターを除く)]

(平成24年5月1日現在)

(注) 前期……博士前期課程 後期……博士後期課程 教研生……教員研修留学生 曰研生……日本語・日本文化研修留学生

派遣……学部所属の正規生で外国政府派遣留学生を外数で示す。

*地域区分及び国・地域の順番は、原則として「世界の国一覧表」(財団法人世界の動き社)による。

2012(平成24)年度留学生日本語教育センター留学生数]

(平成24年4月1日現在)

国・地域名／専攻	学部進学留学生				研究留学生		教員研修留学生		計		合計	
	文科系		理科系				2011.10入学					
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
アジア	イ　ン　ド			2					2		2	
	インドネシア共和国			2	2				2	2	4	
	カンボジア王国			1		1			1	1	2	
	シンガポール共和国	1	2						1	2	3	
	スリランカ民主社会主義共和国				1					1	1	
	タ　イ　王　国		1	2					2	1	3	
	大　韓　民　国	3	4					2	3	6	9	
	中　華　人　民　共　和　国			2						2	2	
	ネパール連邦民主共和国			1						1	1	
	バングラデシュ人民共和国				1					1	1	
	ベトナム社会主義共和国		2	1	1	2			3	3	6	
	マ　レ　ー　シ　ア			1					1		1	
	ミャンマー連邦共和国					1			1		1	
中南米	モ　ン　ゴ　ル　国	3	3	1	1				4	4	8	
	アルゼンチン共和国		1						1		1	
	ウルグアイ東方共和国					1			1		1	
	エルサルバトル共和国				1				1		1	
	グアテマラ共和国			1					1		1	
	コロンビア共和国			1					1		1	
	ブラジル連邦共和国			1					1		1	
欧　州 (NIS諸国)を含む	ペ　ル　一　共　和　国			1					1		1	
	英　　国					1			1		1	
	クロアチア共和国		1						1		1	
	ブルガリア共和国		1			1			1	1	2	
	ベラルーシ共和国				1				1		1	
	ベルギー王国		1						1		1	
	ポーランド共和国		1						1		1	
中　東	ロ　シ　ア		2						2		2	
	イスラエル国		1						1		1	
アフリカ	ウ　ガ　ン　ダ　共　和　国				1				1		1	
	セ　ネ　ガ　ル　共　和　国					1			1		1	
	南アフリカ共和国			1						1	1	
	モ　ロ　ッ　コ　王　国				1	1			1	1	2	
	計	13	18	18	7	7	1	0	2	38	28	66
		31		25		8		2				

※外務省のWebページを参照し、地域ごとに国名を五十音順にしています。

卒業・修了

卒業者数

[外国語学部(平成7年度以降入学者)]

(注)1. 平成23年9月卒業者を含む。2. 上段は男子学生を、下段は女子学生を示す。3. 累計は、東京外国语大学の卒業者数を示す。

修了者数

[大学院地域文化研究科]

課程	専攻	平成23年度	累計
博士前期課程	言語文化専攻	0 2	37 88
	言語応用専攻	0 1	19 62
	地域・国際専攻	2 4	38 72
	国際協力専攻	0 0	26 30
	合 計	2 7	626① 1,168②
博士後期課程	地域文化専攻	5 7	58 92

(注)上段は男子学生を、下段は女子学生を示す。

①、②は、上記の専攻以外の修了者も含めた大学院地域文化研究科の修了者の合計である。

[平成23年度卒業・修了者進路状況]

(平成24年5月1日現在)

(注) 1. 上段は男子学生を、下段は女子学生を示す。

2. 大学院博士後期課程は、満期退学者を含む。

教職員数

区分	学長	理事	副学長	監事	教授	准教授	講師	助教	(平成24年5月1日現在)				
									特定外國語教員 特任外國語教員	外国人研究員	事務・技術職員	特定有期雇用職員	計
役員等	1	3(1)	3	2(2)								9(3)	
大学院総合国際学研究院					85(3)	44	4(3)					133(6)	
アジア・アフリカ言語文化研究所					17	15	3		5			40	
留学生日本語教育センター					9	14	2					25	
世界言語社会教育センター					2	[1]	3[2]		29			34[3]	
国際日本研究センター						1	2					3	
健康管理センター					1	1			1			3	
特命事項担当室						1						1	
事務局									110			110	
その他							[2]			29	29[2]		
計	1	3(1)	3	2(2)	114(3)	76(1)	11(7)	3	29	5	111	29	387(3)(11)

()内の数字はうち非常勤の人数を示す。〔 〕は外数で有期雇用教員を示す。

附属図書館蔵書数

〔附属図書館蔵書数 ※アジア・アフリカ言語文化研究所を含む全蔵書冊数〕

(平成24年4月現在)			
和漢書	洋書	その他製本雑誌等	計
272,602	432,550	98,194	803,346

〔言語別図書内訳 ※アジア・アフリカ言語文化研究所分を除く〕

区分	図書の冊数	区分	図書の冊数	区分	図書の冊数
英語	111,983	日本語	190,070	ビルマ語	3,152
ドイツ語	24,974	中国語	52,952	ウルドゥー語	7,927
ポーランド語	6,083	朝鮮語	11,178	ヒンディー語	17,576
チエコ語	1,300	インドネシア語	4,387	ベンガル語	3,111
フランス語	24,120	マレーシア語(マライ語)	3,715	アラビア語	5,304
イタリア語	9,994	フィリピン語(タガログ語)	365	ペルシア語	2,949
スペイン語	20,213	タイ語	4,461	トルコ語	3,904
ポルトガル語	9,933	ラオス語(ラオ語)	1,936	オランダ語	2,758
ロシア語	41,181	ベトナム語	2,794	インド諸語	7,168
モンゴル語	6,007	カンボジア語(クメール語)	1,204	その他	76,001
				合計	658,700

〔雑誌タイトル数 ※アジア・アフリカ言語文化研究所を含む〕

和漢雑誌	洋雑誌	計
4,351	2,746	7,097

大学の財政状況

予算(平成24年度)

(単位:百万円)	
区分	金額
収入	
運営費交付金	3,110
補助金等収入	0
国立学校財務・経営センター施設費交付金	11
自己収入	2,352
授業料、入学金及び検定料収入	2,280
雑収入	72
産学連携等研究収入及び寄付金収入等	163
計	5,636
支出	
業務費	5,462
教育研究経費	5,462
施設整備費	11
補助金等	0
産学連携等研究経費及び寄付金事業費等	163
計	5,636

教育研究プロジェクト(平成24年度)

(単位:千円)			
区分	プロジェクト名	事業期間	金額
若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム	アジア・アフリカ諸地域に関する研究者養成の国際連携体制構築 非英語圏ヨーロッパ諸地域に関する人文学研究者養成の国際連携体制構築	平成19~24年度 平成21~25年度	8,300 16,600
組織的な若手研究者等海外派遣プログラム	国際連携による若手アジア・アフリカ地域研究者の海外派遣 国際連携による非英語圏ヨーロッパ諸地域に関する若手人文学研究者海外派遣プログラム	平成21~24年度 平成21~24年度	16,504 23,676
文部科学省特別経費	多文化社会人材養成プロジェクト 世界の「言語・文化・地域」理解のための最適化教育プログラム 急速に失われつつある言語多様性に関する国際研究連携体制の構築 「日本語教育研究の世界的な拠点」の形成 地球社会と協働するための言語教育高度化・質保証プログラム —高度な言語運用能力に裏付けられたグローバルインテラフェース力のために— アジア・アフリカの言語文化に関する国際的共同研究	平成23~27年度 平成19~24年度 平成20~24年度 平成21~27年度 平成22~25年度 平成22~27年度	40,590 74,700 61,047 47,500 49,860 59,508

科学研究費交付内定状況(平成24年度)

(単位:千円)

平成24年度	受入件数(件)	受入総額(千円)	内訳											
			外国語学部	総合国際学院	世界言語社会教育センター	アジア・アフリカ言語文化研究所	留学生日本語教育センター	国際日本研究センター	その他					
基盤研究	A	17	122,800		11	85,300		5	30,900		1	6,600		
	B	27	105,100		11	37,700	1	5,600	13	50,900	1	3,800		
	C	53	52,200	2	1,300	32	33,600	1	1,000	13	12,200			
挑戦的萌芽研究		1	700		1	700								
研究活動スタート支援		2	1,200					1	300			1	900	
若手研究	A	1	4,600					1	4,600					
	B	14	12,100	2	1,200	4	3,200	1	600	6	6,600	1	500	
特別研究員奨励費		29	23,800		19	14,900		10	8,900					
計		144	322,500	4	2,500	78	175,400	3	7,200	49	114,400	3	5,100	
													3	8,300
													4	9,600

※受入額に間接経費は含まない。

外部資金受入状況(平成23年度)

(単位:千円)

平成23年度	受入件数(件)	受入総額(千円)	内訳									
			外国語学部	総合国際学院	アジア・アフリカ言語文化研究所	留学生日本語教育センター	世界言語社会教育センター	国際日本研究センター	その他			
共同研究	1	400		1	400							
受託研究	2	14,225		2	14,225							
受託事業	6	40,639		1	400					5	40,239	
寄附金	12	21,027	1	220	2	2,000	3	3,128		1	279	
著作権収入	2	97					2	97				
計	23	76,388	1	220	6	17,025	3	3,128	2	97	1	279
									0	0	10	55,639

※受入額に間接経費は含まない。

土地・建物

[土地面積]

(単位:m²)

地区	校舎等敷地	屋外運動場	研修施設敷地	外国人教師宿舎敷地	職員宿舎敷地	合計
府中地区	102,443	27,557				130,000
戸田地区			1,671			1,671
田沢湖地区			4,488			4,488
吉祥寺地区				1,224		1,224
保谷地区					2,805	2,805
滝野川地区					2,029	2,029
本郷地区	95					95
合計	102,538	27,557	6,159	1,224	4,834	142,312

[建物面積]

(単位:m²)

地区	校舎	図書館	体育館	福利施設	研修施設	国際交流会館	寄宿舎	その他管理部	外国人教師宿舎	研究所	職員舎	合計
府中地区	36,876	6,930	6,167	3,885		2,798	3,288	7,492		8,149		75,585
戸田地区					779							779
田沢湖地区				584								584
吉祥寺地区								764				764
保谷地区										1,732	1,732	
滝野川地区										1,920	1,920	
本郷地区	724											724
合計	37,600	6,930	6,167	3,885	1,363	2,798	3,288	7,492	764	8,149	3,652	82,088

府中キャンパス

全国にある国立大学(法人)の中でもっとも快適な大学の一つが東京外国語大学です。2004(平成16)年秋に朝日新聞社が全国156大学に対して行った好感度調査で、本学は私立、公立を含めた全大学中4位、国立大学法人ではじつに第1位という結果を得ました。評価は、講義やゼミの中身、図書館、食堂など施設面を含め、総合的に評価されるものです。また、2009(平成21)年には府中市の府中景観賞を景観創出部門にて受賞しています。2000(平成12)年10月、東京都北区西ヶ原から現在の府中キャンパスへ移転事業を開始、2010(平成22)年4月に、アゴラ・グローバルが新たに仲間入りしました。文字通り、「対話と交流をベースとして世界を開かれたキャンパス」の誕生です。アヴァンギャルド風のデザインと武蔵野の森を調和させた新しい空間は、21世紀グローバル化時代を生き抜く逞しい知性を育てる上でこの上なく理想的な環境といえます。



● 北アライバルコート



● 研究講義棟



● 屋外環境



● 留学生日本語教育センター



● 国際交流会館 (1号館・2号館)



● アジア・アフリカ言語文化研究所



● アゴラ・グローバル

プロメテウス・ホール等で様々な学術国際会議やオープンアカデミー、地域社会との交流等に使用できるとともに、本学のグローバル・キャンパスの実現に向けた中核となる施設です。また、1階にはカフェ・コーナーが設けられています。

本郷サテライト

本郷サテライトは、東京外国語大学創立百周年の記念事業として、同窓生により組織された記念事業後援会が、同窓生及び法人企業等からの貴重な募金で購入し、大学に寄贈されたものです。

また、2004（平成16）年の法人化を機に、館内設備の充実を図りました。皆様のご利用をお待ちしています。



● 附属図書館



● 大学会館



● 3F 講義室



● 7F 会議室